

【市民提案】

6. 楽しく歩こう川崎宿

【主旨】

1. 子どもからお年寄りまで、誰もが安全に、安心して、楽しく歩ける仕組みづくりをしましょう。
2. 初めて川崎宿を訪れた人でも迷わないサイン（案内）システムや地図情報システムの整備を提案します。

【内容】

1. 解説板、案内板の設置

- 現在設置されている解説板の中には、一部正確な位置からはずれた場所に設置されているものがあります。それらの解説板については、正しい位置への移設を検討します。
- また、解説板のない施設や資源については、川崎宿のまちなみにふさわしい素材やデザインの解説板を新たに設置しましょう。
- 川崎宿に関するイラストやキャラクターを歩道に埋め込んだり、車止めやガードレールのデザインに使用します。また、そのイラストやキャラクターを辿ることで施設に到着するような、楽しみながら歩ける仕掛けをつくりましょう。
- 江戸口、京口の両側に、川崎宿の昔と現在のまちなみを比較できるような案内板を設置しましょう。
- 川崎駅から川崎宿まで誘導し、散策できるような案内サインを設置しましょう。



「亀」のキャラクターを街道筋の車止めや、舗装パネルのデザインに採用（神奈川宿）



史跡の前で、歩道に青海波がデザインされている（神奈川宿）

2. 電柱の地下埋設化

- 現在、小土呂橋から六郷の区間は、電柱の地下埋設され、歩きやすくすっきりとしたまちなみを形成しています。
- 小土呂橋から八丁畷方面にかけての沿道も電柱の地下埋設を進め、歩道を整備して、安全に歩けるよう、行政に働きかけていきます。
- 電柱の地下埋設にともない設置されるパットマウント（変圧器）は、緑色が一般的ですが、宿場の趣に合わせた色にしたり、前面をギャラリーとして活用するなど、まちなみとの調和を検討します。



無粋なパットマウント前をギャラリーとして活用

3. バリアフリー化

- 子どもからお年寄りまで、障害を持った人も持たない人も、安心して川崎宿を歩けるように、バリアフリーの整備を進めます。
- 歩道部分は石畳舗装の整備が進んでいますが、一部にまだ段差が残っています。まず、歩道部分の段差を解消します。
- また、視覚に障害を持った人でも安心して歩けるように点字ブロックの整備を進める他、案内サインや解説板に点字表記を進めます。
- 小土呂橋から八丁畷の区間の歩道については、電柱の地下埋設化が実現できない場合、バリアフリー化など、安全で歩きやすい環境づくりを推進します。



電柱巻き案内サインと石畳の歩道（川崎宿、砂子の里資料館前）

4. 進め方など

- 解説板、案内板の設置、電柱の地下埋設やバリアフリー化などの基盤整備は、一般に行政の施策として実施されます。行政の理解と協力を得ながら進めることが必要です。
- 解説版や案内板のデザイン、色、文字の大きさや書体、電柱や車止めのデザインや素材など公共的なものや、商店の看板や店構えなどに関するデザインマニュアルを、専門家の力も借りて作成しましょう。